

月例報告	
学部	グローバル教養
学科	グローバル教養
国名	アメリカ
留学先	ガステイバス・アドルフス大学
報告月	2018年8月
内容	<p>1.学習状況の報告            &lt;科目名:&gt;            まだ授業は始まっていないのでなし。            &lt;語学について&gt;</p> <p>2.生活状況の報告            ミネアポリス国際空港に着いたら、ガステイバスの国際交流パートナーの学生たちが迎えてくれて、そこから大学までのバスに乗りました。大学については軽くオリエンテーション前に使いそうな施設の説明があり、その後入寮しました。寮の部屋は二人部屋で、ルームメイトはテキサス出身のアメリカ人です。あらかじめ、枕やシーツのセットは置かれてました。そのあとカフェテリアに行ってお昼を食べました。着いてからオリエンテーションの期間はいくら食べてもお金がかからないのでこの期間のいろんなものを食べて、自分の好きなものを見つけるといいです。そのあとシャワーを浴びようとしたら、シャンプーや石鹸がなかったので近くのスーパーに片道0.5マイルかけて買いに行きました。ミネソタは寒いイメージが強かったので暑さ対策グッズはなにも持ってきてなかったのですが、30度近くなる日もあり、しかも寮の部屋にはクーラーがないので夜寝るときなどは少し気になります。着いて次の日はまだオリエンテーションが始まっていなかったのでジムに行きました。ジムは体育会の学生が優先なので彼らが使っていない時間に使うことができます。アメリカのジムらしく、整備などは行き届いてないですが不便さはなく、むしろ器具は豊富でした。また学校にスカッシュのコートやクロスフィットの設備があることに驚きました。ジムの後、カフェテリアに行きました。カフェテリアの食事はザアメリカの学校の食事という感じで、油モノやパスタやピザが中心です。少し中華料理があっただけお米があったのは良かったです。ただ、カロリー制限などをする場合は食べるものがかなり限られるので、三食こししか選択肢がないことを考えると、自炊することも必要かもしれません。寮に一つ共用のキッチンがあり、冷蔵庫は部屋にルームメイトのものがあるので週末に近くのスーパーで食材を買ってきて作り置きしておくともよいかもかもしれません。</p> <p>3.その他(今、感じていること～心境の変化やご自分の成長等)</p> <p>まず空港に着いて思ったことは食べ物が高いということです。アメリカは一般的に一人に対する求める労働量が日本と比べて少なく、また時給も高いことが多い(州や県によった変わる)ので結果的に外食は高くなる傾向にあります。また日本と規制されている化学調味料なども違うので神経質な人は自炊の方が精神的にも、お財布的にもより良いかもしれません。また、外食が高い割にスーパーに行くと、肉やフルーツは日本に比べて割安です。日本では自炊するとコスパが良くないこともありますが、アメリカでは、比較的コスパが良いと思います。空港から学校までのバスに乗っていて思ったことは全てが大きいということです。平均身長も平均体重も日本よりアメリカのほうが大きく、体が大きい人が多いので車がほとんど大きいです。もしかしたらニューヨークなどの都会に行ったら変わるかもしれませんが、日本で一般的なクラウンサイズセダンはほとんど見ません。セダンでも、車高が高めのものが多いです。また、それに合わせるように道幅も広いです。東京なら二車線の広さのところで一車線だったりします。また日本に比べていろんなことが効率的な気がします。例えば、ごみ箱がどこにでもあります。ポイ捨てが減るので掃除する手間が省けます。日本と違って多民族国家だからか、国民性の違いが分かりませんが、アメリカでは日本のように個人のモラルに賭けるより、ごみ箱を増やした方が効率的なのでしょう。日本もポイ捨てが多いので、ポスターを増やしたりするよりより効率的な方法があるように感じます。あとは、掃除機のモーターがリュックのように背負えるやつを清掃員の人が使ったことにも驚きました。一般的なモーターを引きずる掃除機よりフットワークが軽くなり掃除も早く終わりそうです。知り合いになったアメリカ人や留学生の友達とお昼ご飯を食べていた時、唐突に男女の仕事場での不平等さについての話になりました。あるアメリカ人の男の子が、女性差別などに対して、人は皆問題をかかえて生きているのだからいちいち抗議しても意味がないと言ったことに対して他の子が異議を唱えたようでした。話が進んで行く中で僕はアメリカでの黒人の差別に対する抗議とそれによって成し遂げられたことの歴史を思い出したので言おうとしましたが少し躊躇しました。なぜかという、その男の子を含め何人か黒人の人が一緒にいたからです。まず、社会問題についてカジュアルな場で話すことも日本ではあまりないですが、それより、多種多様な人がいることでどこまで言っているかわからないということに衝撃を受けました。例えば日本では、もし人種について話せないなと思ったら他の事を話せば何とかかなりです。しかしアメリカだと、仮に人種についての発言をさせてLGBTなどの例をだそうとしても、それはそれでLGBTの人も多くいます。だから、意見を聞かれても中立の当たり障りのないことしか言えず困りました。ちょっとずつそういう状況にも慣れていって、相手を理解して、誰も傷つけることなく踏み込んだ発言を出来ればと思います。</p>